

重信川中流域の鳥類調査

2001年4月～2002年4月



愛媛県立松山中央高等学校
バードウォッチング部

目 次

I	はじめに	
II	調査	1~18
	1. 方法	1
	2. 地点	2~5
	3. 解析	6~8
	(日本鳥学会2002年度大会 発表要旨)	8~9
	4. 記録表	10~17
	5. 調査風景	18
III	累積記録	19~31
	1. 各種解説に関する説明	19
	2. 各種解説	20~28
	3. 重信川中流域の鳥類	29~31
IV	あとがき	32~33
V	文献	33
VI	部員紹介	34

I はじめに

部長 上 沖 正 欣

私たち松山中央高校バードウォッチング部は、学校のすぐ側を流れる重信川を中心に活動し、これまでに多くの野鳥を観察してきました。創立以来16年間の記録は膨大なもので、この貴重な記録を眠らせておくのは勿体無い、できるなら沢山の人に知ってもらいたいという思いから、この冊子は作られました。1993年、1996年にも同様のものが発行されていて、今回で3冊目となります。

1995年からは週1回の割合で鳥類の生息調査を実施してきました。定期的な調査により、信頼のおけるデータを蓄積するのが目的です。1年単位で南海放送サンパークから中川原橋までの区間を調査します。今回は2001年4月から2002年4月までの調査記録と、1995年5月から1996年5月までの調査記録を比較して載せています。また、累積記録では、過去の観察記録から2002年11月現在までの全ての記録と、日本野鳥の会愛媛県支部の相川善一氏の観察記録を含めたものを載せています。

こうして観察を続けている重信川中流域ですが、ここだけで現在までに138種の野鳥が記録されています。これは、国内で記録のある野鳥の実に4分の1に相当する値です。しかしそこを取り巻く環境は、徐々に、そして確実に悪化してきています。特に、水辺に生息するシギ類やカモ類が著しく減少しています。また度々行われる大規模な護岸や河床工事、それに伴う河川の乾燥化、高速道路の建設、葦原の減少、水量減少など目を覆いたくなる状況です。しかし、それらの変化は毎日のように重信川を観察しているから分かるのであって、普通に過ごしている人たちには気づきにくいもののようなのです。そうした人たちに関心を持ってもらい、重信川が鳥や諸々の生物たちの生息地としてどれだけ重要な場所であるかということを証明し、理解を求めめるためにも、こうした記録は有効なものなのです。環境問題の解決が重要課題となっている昨今ですが、バードウォッチング部としてその糸口となるであろう冊子が発行できるのは嬉しい限りです。そしてさらに後輩たちに重信川中流域の貴重な記録として受け継がれ、次第に充実していくことを願っています。

最後に、重信川中流で観察した貴重な記録を、快く提供して下さった相川善一氏に厚くお礼申し上げます。

Ⅱ 調 査

1. 方法

松山中央高校バードウォッチング部は、2001年4月から2002年4月までの1年間、部活動の時間を使って、週一回のペースで計48回の調査を行った。この調査と同様の調査は過去にも行なわれており、今回も同じような方法で実施した。

最初に、調査地点について説明する。学校の側を流れる一級河川の重信川（河口からの距離約5 km～8 kmの間）とその周辺を対照とし、この区間を「川原」「水路」「橋上流」「橋下流」「その他」の5つの地点に分けて設定した。この地点は、環境と、観察される大体の鳥相別に設定したものである。

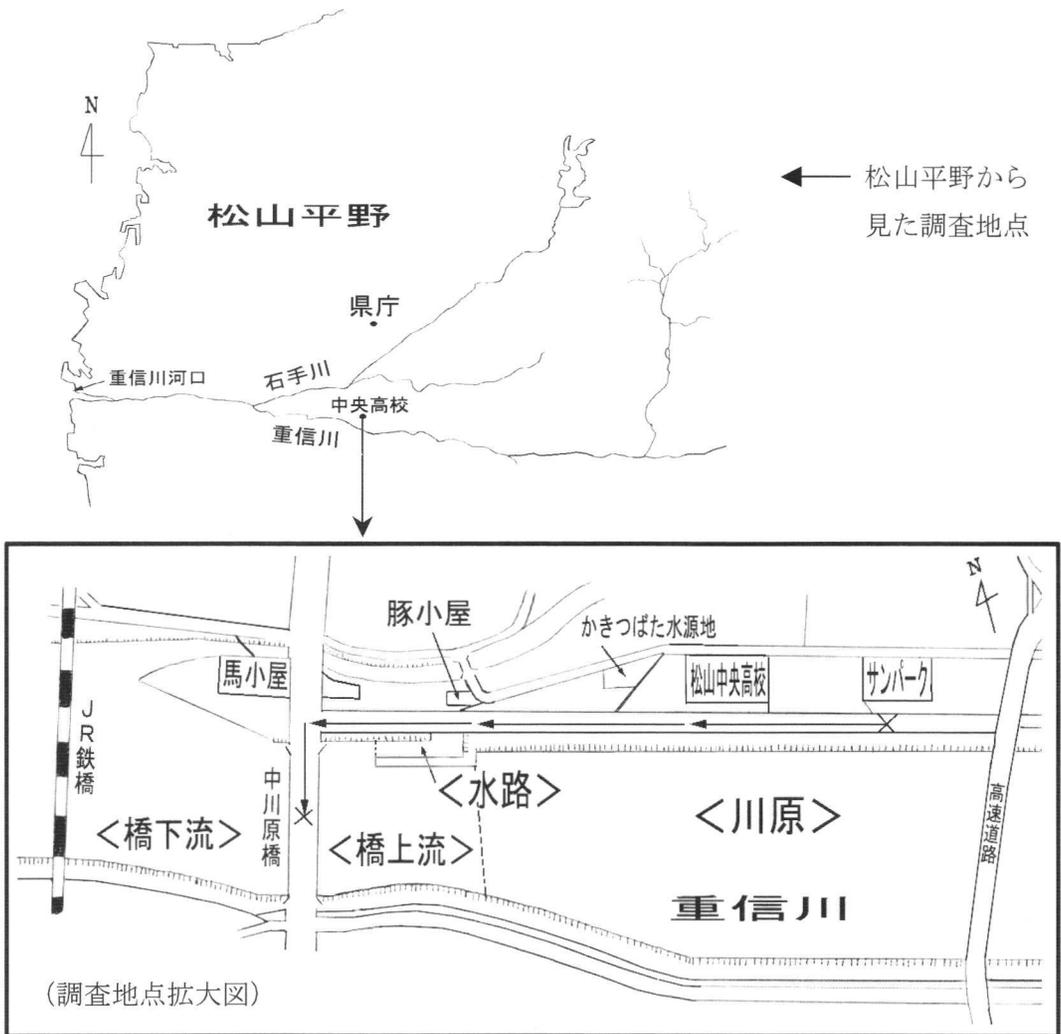
次に、調査方法について説明する。前述した「川原」「水路」「その他」は堤防を徒歩で移動し、観察対象が出現したその都度、立ち止まって観察した。「橋上流」「橋下流」については中川原橋の上に立ち、川を見下ろすかたちで、止まって観察した。観察手段としては、鳴き声や目視による確認の他に、双眼鏡とフィールドスコープを適宜用いた。そして、出現した鳥種、個体数を全て確認し、特筆事項も含めて記録用紙に記入していった。しかし、すべてとは言っても、隠れていたり、遠過ぎるために識別不可能な鳥も当然いるため、できるだけ見逃さないようにするということである。

次に、調査時刻について説明する。原則として放課後の部活動の時間を利用したために、午後の夕方に近い時間帯が主になっている。観察に適した時間帯は午前中であるが、部活動の時間帯の大半が同じ時刻ということで、記録を比較する上では好都合であり、弊害はないと思われる。

最後に、調査員について説明する。基本的に15期生の上沖と高橋の2名を中心として行った。人数が少なく観察や調査には不利であるが、逆に観察者が一定ということは、データに個人の能力差によるバラつきが少ないということで、記録としては、より信頼のおけるものになっている。

こうして蓄積されたデータを、グラフにまとめ、どのような変化が現れているのかを解析することにした。今回は1995年5月から1996年5月までの過去の調査記録と比較検討することにした。しかし、調査日の天候、時間帯、河川水量の増減、調査のペース、調査員の違いにより、鳥の個体数は大幅に変化することが考えられる。しかし、鳥の種数については、今回の調査も過去の調査も月に最低3回は調査しているため、鳥の個体数よりも確実性があると思われる。したがって、比較する上では主として種数について見ていくことにした。これについては、6ページの調査記録の解析に詳しく示した。

2. 地点



地点説明

- 「川原」……高速道路から点線で示したところまでの範囲。川、川原、川岸を含む環境。流れはほとんどなく、草地、葦原が多い礫地帯である。
- 「水路」……用水路の小さな流れがあり、点線で示した範囲。周囲が葦原で囲まれた閉鎖的環境。「川原」と違って常に流れがある。
- 「橋上流」……点線で示したところから中川原橋までの川、川原、川岸を含む環境。用水路からの流れがあり、狭い範囲ではあるが常に水が流れている。
- 「橋下流」……中川原橋からJR鉄橋までの川、川原、川岸を含む環境。ここも水路からの水が常に流れている。
- 「その他」……高速道路からJR鉄橋までの範囲で、上記した4地点以外の環境。主に農耕地、雑木林である。

中央高校の南側から高速道路



1995年



2002年

5年前と比較して、中央高校の南側から高速道路までの環境変化は、まず高速道路が建設されたということである。また、川の流れはほとんどなくなり、水が流れていたところは現在では草地になっている。

中川原橋の上流側



1995年



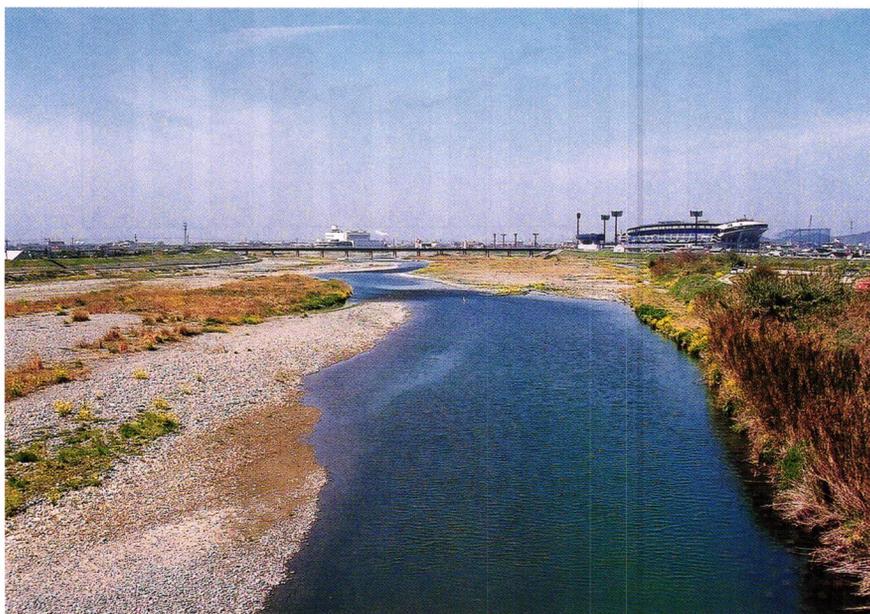
2002年

中川原橋の上流側における環境の変化は、写真左の雑木林が切り開かれて空地のようになり、コンクリートの堤防がつけられたことである。水路からの流れは変わらないが、水の流れがなくなり、ほとんどが草地になっている。

中川原橋の下流側



1995年



2002年

2002年の写真では、水路からの流れしかなく、1995年の写真と比べて川幅がかなり狭くなっている。以上3地点を1995年の写真と比較した。川の流れや地形は、大雨などの要因でしばしば変化するが、人為的な変化は自然に回復することが困難である。

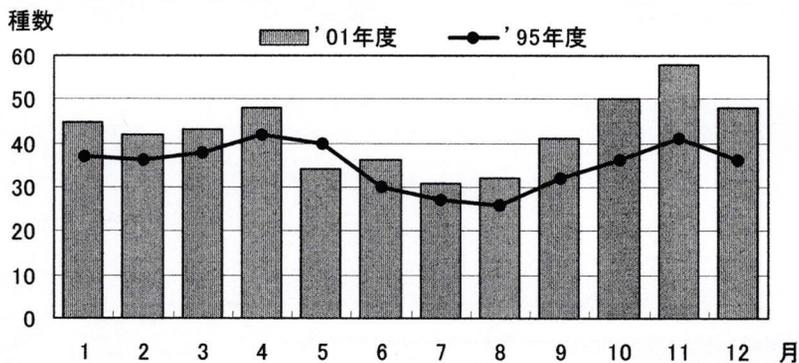
3. 解析

ここでは、過去に調査した1995年5月～1996年5月までの記録と、今回調査した2001年4月～2002年4月までの記録を比較検討していく。比較する上で注意すべき点として、過去の調査と今回の調査では、調査方法に若干の違いがあることと、調査員が異なっているということがある。それを前提として以下、結果を考察する。

— 結果と考察 —

1. 月毎の種数変化

各月に見られた種数の合計を算出し、グラフ1に示した。全体として春期、秋期に種数が増加し、夏期に減少していることが分かる。これは春期、秋期には留鳥以外に夏鳥、冬鳥、旅鳥が同時に観察されるためで、夏期は河川を利用する夏鳥が少ないためである。また、今回の調査で記録された種数が年間を通して、過去の記録と比較して明らかに多くなっていることが分かる。しかし、95年度の調査では計69種、01年度の調査では計73種で、その差は4種しかない。つまり、今回の結果はある一部の種の出現率が高いと解釈でき、観察された種数が単純に増加したとは言えない。



グラフ1. 月毎の種数変化

2. 渡り区分別種数の割合

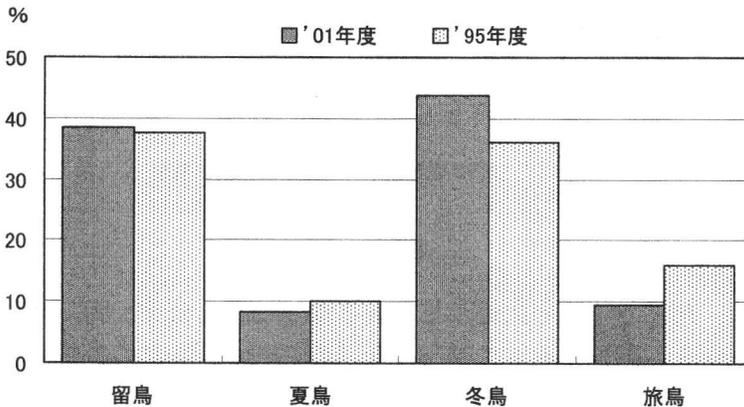
渡り区分別種数の内訳を見ていく。鳥の渡り区分は、大別すると「留鳥」「夏鳥」「冬鳥」「旅鳥」の4つの型に分けられる。なお、ここでいう区分は、重信川中流域における区分である。グラフ2にそれぞれの割合を示した。

まず、夏鳥と冬鳥に著しい格差が見られるが、これはもともと日本に渡ってくる夏鳥の大部分が小型の森林性鳥類であり、繁殖に適した森林環境が調査地に少なく、冬期は餌条件や気象の厳しい森林より、平地を利用する種が多いためだと思われる。

今回の調査で確認された留鳥と夏鳥に関しては、過去の記録と比較しても種数に大きな差は見られない。しかし、今回は冬鳥が増加し、旅鳥が減少している。詳しく種を見ると、ヒメアマツバメ、シロハラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、シメ、コクマルガラスが今回は冬鳥として記録されている。ヒメアマツバメ、コクマ

ルガラスを除く5種は、主に森林を生息場所とする種で、年によって厳寒地や高標高地から、暖地や低地に漂行してくる個体数に変動がある。よって、95年度は平地にある小さな雑木林へ飛来する個体数が少ない年だったことが考えられるが、はっきりしたことは分からない。ヒメアマツバメ、コクマルガラスについては観察頻度が高い種ではないため、過去の調査では確認できなかったと考えられる。

次に旅鳥では、シマアジ、トウネン、タカブシギ、セイタカシギが過去の調査で記録され、今回は記録がない。これら4種はいずれも水辺を利用する種である。シマアジを除いてすべてシギ類であり、水辺の環境が深く関わってくる。シギ類は長距離の渡りをするため中継地は餌が豊富であることが重要条件であり、わずかな環境変化にも敏感で、全国的に減少が著しい。調査以外の記録を見ても、チュウシャクシギやキョウジョシギなどは近年、まったく見られなくなっている。こうしたシギ類が観察されなかった要因としては、河床の栄養に富んだ泥層の工事による消失、河川の乾燥化、水質悪化によって餌である水生昆虫等が減少したことなどが考えられる。



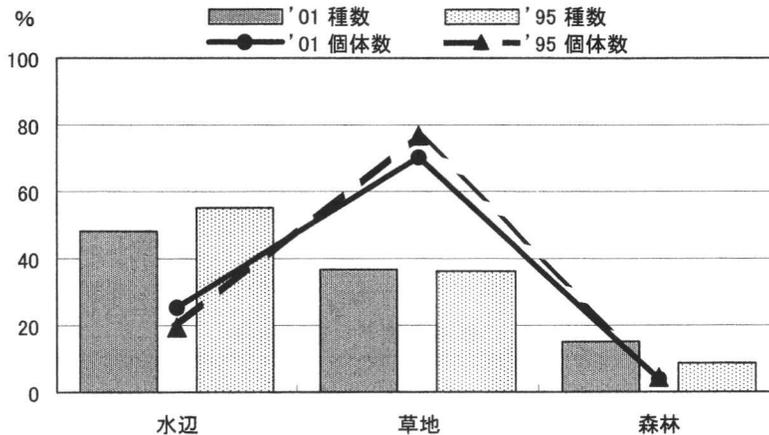
グラフ2. 渡り区分別種類の割合

3. 環境による種数と個体数の割合の違い

調査地における主要な生息環境を水辺、草地、森林の3つに大別し、記録された種が利用する、環境ごとの種数と個体数の割合をグラフ3に示した。この結果から、種数については水辺を利用する種が最も多いことが分かる。次いで草地、森林と続く。次に、個体数について見てみると、種数の割合とは違った結果となっている。草地を利用する個体数が顕著に多く、水辺、森林と続いている。これは、調査地における水辺、草地、森林の面積比に類似している。また、草地を利用する種には群れるものが多く、一度に記録される個体数が多いことも割合が高くなった一因であると思われる。

過去の調査と比較しても、種数、個体数のそれぞれの環境における割合に、大きな差は見られない。種数について、水辺と森林に若干の増減が見られるが、これは主に、渡り区分別種数の割合で述べた水辺を利用する旅鳥（シマアジ、トウネン、タカブシギ、セイタカシギ）と、森林を利用する冬鳥（シロハラ、ヤマガラ、

シジュウカラ、メジロ、シメ) の違いによって生じたものである。注目すべき点として、水辺を利用する種が多い反面、その個体数は少ないことが挙げられる。水辺を利用する種には、広大な採餌環境があれば群れで出現するものが多い。したがって、本調査地に採餌環境は存在するが、その面積が小さいということを表している。つまり、生息に適した水辺が減少すれば、これらの種は種数と同時に個体数も急激に減少することが考えられる。



グラフ3. 環境別の種数と個体数の割合

— ま と め —

全体的には、過去の結果と比較しても大きな差は見られず、河川環境に劇的な変化はないということが言える。しかし、今回の調査が行われた期間のうち、2001年8月から2002年3月にかけて、本調査地において大規模な護岸工事が行われ、その間、中川原橋のすぐ上流と下流を除く川原は河床を掘り返され、流れがない状態であった。また、それによって河川やその周辺の環境にかなりの変化があった。今回の調査結果ではその影響は顕著に現れていないが、工事の影響が如実に現れたのは工事終了後からで、調査地は水流がほとんどなく、乾燥し、草原化している状況である。そして今回、唯一6年前と比較して減少していた、水辺を利用する種はさらに減少している。現在も調査は継続中であり、現れ始めた工事による鳥類への影響に今後とも注目していきたい。

〈日本鳥学会2002年度大会 発表要旨〉

松山中央高校バードウォッチング部は、2002年9月13～16日に東京で行われた日本鳥学会2002年度大会に出席し、高校生のポスター発表のプログラムで重信川中流域におけるカワウの個体数変動について発表した。次ページの枠内にその時の要旨文を記載した。

重信川流域におけるカワウの個体数変動

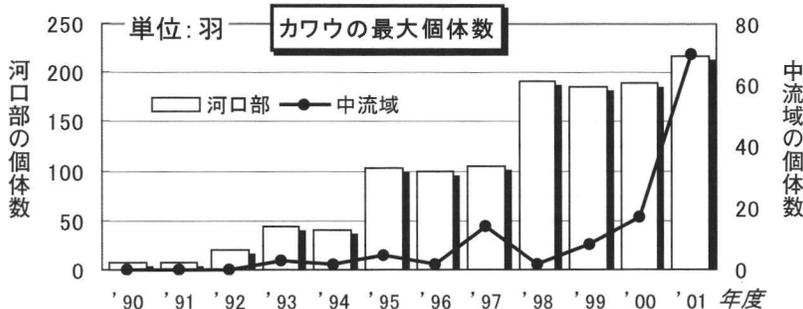
○ 上沖正欣^a・高橋良太^a・高橋淳^a・小川次郎^b・山本貴仁^c

(^a愛媛県立松山中央高校・^b愛媛大学大学院連合農学研究科・^c愛媛県総合科学博物館)

演者らの所属する松山中央高校バードウォッチング部は、過去16年間にわたって重信川流域の鳥類を観察してきた。今回は、その中でも特に興味深い動きがあったカワウ (*Phalacrocorax carbo hanedae*) の観察記録を抽出し、個体数変動を報告する。従来、四国においてカワウは冬鳥とされ、個体数も少なかった(石原, 1982; 日本野鳥の会徳島県支部, 1987)。しかし、1990年頃から県内でも比較的大きな河川の河口で群れが見られるようになり、現在では松山平野において重信川河口を中心に200羽前後が越冬している。今までのところ、重信川周辺でカワウによる内水面漁業等への被害は報告されていないが、他地域と同じような問題が今後発生する可能性は十分にあり得る。そのため、現在の動向を把握する事は、それらを予測し、対処するのに有効であると思われる。重信川流域におけるカワウの個体数の記録については、部活動の記録と併せて、日本野鳥の会愛媛県支部の河口部での調査データ(岩本ほか, 未発表)を用いた。

カワウの増加は重信川河口で1991年から始まり、当時は7羽が確認された。中流域では1994年1月に初めて越冬個体が記録された。また、同月に河口部で記録された最大個体数は40羽であり、この数はシーズンを通しての最大個体数とほぼ同じであった。中流域ではその後、冬季は毎年観察されたが、個体数は5羽以下だった。河口部での越冬個体数が100羽を超えたのは1996年1月からである。個体数は中流域及び河口部とも次第に増加し、2001年12月には中流域でも70+羽を記録した。中流域で観察されるカワウのうち採餌を行うのは一部の個体で、ほとんどが移動中の個体であるが、これらの個体数が増加していることは、河口部の集団が行動圏の拡大を始めたことを示していると考えられる。中流域及び河口部でカワウが主に観察されるのは9月から翌年の4月にかけてであり、出現頻度と個体数は11月から翌年2月にかけて最も多くなっている。

重信川流域における最大個体数が200羽に達してからは、観察される個体数が安定してきているが、それと同時に周辺の溜池やダム湖での観察記録が増えるようになった。これは、200羽程の個体群を重信川流域だけでは維持できなくなったためと考えられる。さらに河口部では1997年から、中流域でも2001年7月に越夏個体が確認された。いずれも10羽を超す記録は無いが、越夏個体も年を追うごとに増加傾向にあり、2002年現在では河口部で7羽程が確認されている。繁殖についてはまだ確認されていないが、夏季に複数個体が確認されていることなどから、将来は松山平野周辺での繁殖の可能性もあり得るだろう。今後もカワウの動きに注意して重信川流域の鳥類を調査していきたい。



4. 記録表

調査方法の説明で示した方法に従って記録したものを、表にまとめた。地点は、調査を実施した時には5地点に分けて記録したが、紙面の都合により「橋上流」「橋下流」を「川原」に含め、「川原」「水路」「その他」の3地点とした。

種名…鳥の種名とその順序は、日本鳥学会発行の『日本鳥類目録 改訂第6版』に従った。

地点…詳細は2ページの地図を参照。

- ①「川原」 川、川原、川岸を含む環境
- ②「水路」 用水路の流れがあり、周囲を葦原で囲まれた閉鎖的な環境
- ③「その他」 川、川原、川岸以外の田畑や雑木林等を含む環境

種名	月日 地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
		27	7	19	28	1	8	14	19	3	13	19	27	3	10	17	24	30	4	14	25	29	4	11	19	26	
1 カイツブリ	川原	2				1			1											1	2		1	4	2	4	2
	水路																										
	その他																										
2 カワウ	川原												1						1	9					5	5	
	水路																										
	その他																									2	
3 ゴイサギ	川原			1	15	10	1		4	2	4	2	4	4	2		1	2	5	14		1	1	21	2	1	
	水路	15		9		5	2	1	3					1		1		8		1			1		1		
	その他							5	1				1														
4 ササゴイ	川原						2		1			2		1													
	水路																										
	その他																										
5 アマサギ	川原				6	6			5				1	45	12			9	3	1				4		1	
	水路																										
	その他					1	8	4	5			1															
6 ダイサギ	川原	8	6	9	15	10	2	19	19	7	17	8	26	85	78	25	19	17	13	9	14	9	5	14	8	10	
	水路							4									1		1		3	1					
	その他	3		1	2		2																				
7 チュウサギ	川原								1					11	8				3								
	水路																										
	その他																										
8 コサギ	川原	7	4	8	20	26	10	24	14	3	4	4	11	46	121	83	21	21	17	9	9	9	8	15	6	2	
	水路			1			1		2				1		1			1		2				2	2	1	
	その他	18		1	1	10	7		11					1		1	2	1	1		1	1	5			1	
9 アオサギ	川原	22	32	20	34	15	10	70	28	22	42	23	42	57	95	30	35	50	15	26	18	20	22	14	20	10	
	水路			2		6		2	4				1	1	3	2	4	6	4	5	2	1			2	1	
	その他	5	3		1	1	1	1			3	3							1	1	1	1				1	
10 マガモ	川原	2		3	1															5			2	14	4		
	水路																									7	
	その他																										
11 カルガモ	川原				2	3		2	2											2			2		4		
	水路																										
	その他																										
12 コガモ	川原																			2			1	15	13	6	
	水路																										
	その他																							11	31	28	
13 ヨシガモ	川原																										
	水路																										
	その他																										
14 オカヨシガモ	川原																										
	水路																										
	その他																										

種名	月日 地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
		4	5	5	5	6	6	6	6	7	7	7	7	8	8	8	8	8	9	9	9	9	10	10	10	10
		27	7	19	28	1	8	14	19	3	13	19	27	3	10	17	24	30	4	14	25	29	4	11	19	26
15 ヒドリガモ	川原																				1			2	5	2
	水路																								1	
	その他																									
16 オナガガモ	川原																									4
	水路																									
	その他																									
17 ミサゴ	川原							1			1				1									1		
	水路																									
	その他																									
18 トビ	川原		1	3		1		1		1	1	1	1	2	4		1		1		1		1		1	1
	水路										1															
	その他																									
19 オオタカ	川原			1																		1				
	水路																									
	その他																							1		
20 ハイタカ	川原																									
	水路																									
	その他																									
21 ハヤブサ	川原																		2						1	
	水路																									
	その他																									
22 チョウゲンボウ	川原																						1		1	
	水路																									
	その他																							1		
23 キジ	川原	2	1	2	2	2	2	4	5							1				1						
	水路																									
	その他									5																
24 クイナ	川原																									
	水路	1				1																				
	その他																									
25 バン	川原	3							2														1			
	水路							1																		1
	その他																									
26 コチドリ	川原	9	10	3	11	11	16	8	20	23	13	6	11	8	9	3	11	13	1	2	2	2	2	1	21	17
	水路							1																		
	その他									1																2
27 イカルチドリ	川原	11	7	4	5	18	11	8	21	6	1	1	3	3	2	12		17	8	2	2			8	2	2
	水路	1																	2							
	その他																									
28 キアシシギ	川原		1	7		4																				
	水路		1																							
	その他																									
29 ムナグロ	川原	15		6																					6	
	水路																									
	その他																									
30 タゲリ	川原																									
	水路																									
	その他																									
31 ハマシギ	川原																							5		18
	水路																									
	その他																									
32 アカアシシギ	川原																					1	1	1		
	水路																									
	その他																									
33 コアオアシシギ	川原																								1	1
	水路																									
	その他																									
34 アオアシシギ	川原																					2				
	水路																									
	その他																									4

26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48																										月日	最大 個体数	種名			
																										地点					
11	11	11	11	12	12	12	12	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	川原	35	ヒドリガモ	15	
2	9	16	22	11	15	20	28	5	11	18	25	1	8	14	6	15	22	28	5	12	19	26	水路	3							
15	22	16	16	13	35	1					3	2	1		2											その他	0				
3																											川原	16	オナガガモ	16	
1	4	8	6	1	5									3	2	16					2					水路	4				
																											その他	0			
				1																		1	1				川原	1	ミサゴ	17	
																											水路	0			
																											その他	0			
			3	7	2	1	2	4	2	1		1	1	1	1	2	1		1	2	1	1	1				川原	7	トビ	18	
						1			1																		水路	1			
						1																				2	その他	2			
			1	1		1	1																				川原	1	オオタカ	19	
																											水路	0			
																											その他	1			
	1	1			1			1	1				1		1							1					川原	1	ハイタカ	20	
																											水路	0			
																											その他	1			
1		1			1	1						1															川原	2	ハヤブサ	21	
																											水路	0			
			1	2	1	1		2	1			2	1		1											1	その他	2			
					1	1	1	1																			川原	1	チョウゲンボウ	22	
																											水路	0			
			1					1	1			1	1														その他	1			
																											川原	5	キジ	23	
																											水路	0			
																										その他	5				
			3																								川原	0	クイナ	24	
																											水路	1			
																											その他	0			
				1	1																						川原	3	バン	25	
						1																					水路	1			
																											その他	0			
2	22	5	1		1			1	4		3	7			6	24	20	15	11		7	18				川原	24	コチドリ	26		
																											水路			1	
																											その他			2	
4	4	8	15		3	2		1	4	6		6	10	12	9	6	3	4	4	1	3	13				川原	21	イカルチドリ	27		
																											水路			2	
																											その他			0	
																											川原	7	キアシシギ	28	
																											水路	1			
																											その他	0			
																											川原	15	ムナグロ	29	
																											水路	0			
																											その他	0			
			1	3	4																						川原	4	タゲリ	30	
																											水路	0			
																											その他	0			
			6																								川原	18	ハマシギ	31	
																											水路	0			
																											その他	0			
																											川原	0	アカアシシギ	32	
																											水路	1			
																											その他	0			
																											川原	1	コアオアシシギ	33	
																											水路	0			
																											その他	0			
																												川原	2	アオアシシギ	34
																											水路	0			
																											その他	4			

種名	月日 地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
		27	7	19	28	1	8	14	19	3	13	19	27	3	10	17	24	30	4	14	25	29	4	11	19	26	
35 クサシギ	川原	6										1	1				1	1	2	1	2	1	3	4			
	水路	2																2		1	3	1	2	1	1		
	その他																										
36 イソシギ	川原	1				2			1		1		1	2			1	5			1	2	1		1	1	
	水路															1		2	1					1			
	その他																										
37 タシギ	川原	2	1																3						2	2	
	水路																						1	1			
	その他																	2									
38 キジバト	川原	7	8	9	16	10	12	16	18	15	6	9	17	3	6		6	10	18	4	1	7	11	22	11	6	
	水路		2	2			1	2	1	4			2				1	2			2	1	2	1		3	2
	その他	5	17	3	3	4		3	4	5	3	7	6	2	3	4	1	9	4	14	8	3	2	10	5	5	
39 ヒメアマツバメ	川原																										
	水路																										
	その他																										
40 アマツバメ	川原																										
	水路																										
	その他										2																
41 カワセミ	川原			1														1						1	2	3	
	水路										1											2	1			1	
	その他																										
42 ヒバリ	川原	24	14	20	31	26	42	28	27	27	14	23	15	11	7	20	11	14	7	4	14	7	21	8	19	6	
	水路										2																
	その他			1		2			5	4					5								2	1			
43 ツバメ	川原	19	11	22	37	45	38	62	36	29	11	24	4	4	8		10	38	17	5				6	22		
	水路		7	2		2		2	6	2			5	4		10	14			7			3				
	その他	11	7	25	38	20		38	1	2	7	6	6		9	5	1	6	10	5							
44 コシアカツバメ	川原																					1					
	水路																										
	その他																										
45 キセキレイ	川原																		1	5		2	1	2	2	2	
	水路																						1				
	その他																			1							
46 ハクセキレイ	川原	1																2	4	5	1	1	39	53	47	35	
	水路								1														1		1		
	その他				1																				2	2	
47 セグロセキレイ	川原	1		4	10	5			1	1	2		1		3	3		4	1	8	2	4	23	11	15		
	水路					1														1				1	1		
	その他									2							1			1		1	2		7		
48 タヒバリ	川原																										
	水路																										
	その他																										
49 ヒヨドリ	川原		1						3	2	1			1	4	1		2	5	1		1	3	1	1	6	
	水路																							1	1	1	
	その他				1			1				1					1			1		1			2	6	
50 モズ	川原					1		1					1						1		2	2	5	4	3	7	
	水路																						1		1	2	
	その他				1			1		1	1	3								1	4	5	2	3	2	4	
51 ジョウビタキ	川原																									2	
	水路																										
	その他																										
52 ノビタキ	川原																		4			6	2	13	3	4	
	水路																										
	その他																										
53 シロハラ	川原																										
	水路																										
	その他																										
54 ツグミ	川原	14	1																								
	水路																										
	その他	3																									

26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48																										月日	最大 個体数	種名	
11	11	11	11	12	12	12	12	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	地点						
2	9	16	22	11	15	20	28	5	11	18	25	1	8	14	6	15	22	28	5	12	19	26	川原	7	クサシギ	35			
2	1	3			1	1	2	1			1	3	1	7	2			1			1	1	3	水路			3		
		1	2						1	1														その他			0		
			1			1		1			1	1	1	1		1	2				1	1	3	川原	5	イソシギ	36		
																								水路	2				
																								その他	0				
		8									2		6			6	1					2	1	川原	8	タシギ	37		
																								水路	1				
																								その他	2				
10	6	8	12	7	9	11	7	10	9	6	15	10	14	5	5	8	3	8	8	8	5	14	川原	22	キジバト	38			
1	2	1	1	2			1	2	1									1			2	2	水路	4					
6	12	6	3	10	12	5	1	6	18	6	4	4	5	4	6	5	4	9	4	2	6	7	その他	18					
																								川原	0	ヒメアマツバメ	39		
																								水路	0				
					4																			その他	4				
																								川原	0	アマツバメ	40		
																								水路	0				
																								その他	2				
2	1		1	1	3		1			1								1	1	1	1	1	川原	3	カワセミ	41			
																		1	1				水路	2					
																								その他			0		
17	8	24	33	21	23	25	23	26	26	36	37	24	22	37	7	19	9	28	15	19	15	29	川原	42	ヒバリ	42			
									1													1	水路	3					
	11		2									7					2	1			5	3	6	その他			11		
																6	21	17	19	13	21	7	川原	62	ツバメ	43			
														1			7		6	2	6		水路	14					
	4														1		7	3	12	7	15		その他	38					
																								川原	1	コシアカツバメ	44		
																								水路	0				
																								その他	0				
12	6	1	1	3	3	1		1	1	2	1		2										川原	12	キセキレイ	45			
																								水路			1		
	1																							その他			1		
70	57	58	14	22	12	3	10	11	11	18	32	12	24	24	7	15	18	40	12	10	11	8	川原	70	ハクセキレイ	46			
3	1	4	1	1		3		1	3					1	2	1	2	1	1	1	1	1	水路	4					
	16		1				2		2			2		1		1		4	1		1		その他	16					
36	23	10	2	3	7	4	6	10	3	5	5	3	9	5	2	4	1	1	5	6	3	2	川原	36	セグロセキレイ	47			
1	1	1	1			1														1			水路	1					
	1	1	1														1				1	2	その他	7					
3	12	9	13	1	9		3	7	15	4	20	6	29	36	3	10	8	4	2	3	1		川原	36	タヒバリ	48			
		1																					水路	1					
		2					6										1	3					その他	6					
	3	12	14	4	4		1	1	1	3	10	6	9	2	2		1	3	4		4	1	川原	14	ヒヨドリ	49			
		1	3															1					水路	3					
																							その他	8					
4	2	4	1	3	2	7	1	3	5	6	1	7	8	3	6	2	1	2	3	1			川原	7	モズ	50			
			1																			1	水路	2					
																							その他	5					
2	2	1	1																				川原	2	ジョウビタキ	51			
																							水路	1					
														1									その他	2					
																								川原	13	ノビタキ	52		
																								水路	0				
																								その他	0				
																								川原	0	シロハラ	53		
																								水路	0				
				1	1																	2	その他	2					
	6	1	8	2			5	1	7	21	27	5	91				12	12	7	8	7	3	18	6	川原	91	ツグミ	54	
																		2	2		3	2			水路	3			
					1	15	4	36		2	21	5	26	41	23	34	11	2	5	4	1	8	1	その他	41				

種名	月日 地点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
		4	5	5	5	6	6	6	6	7	7	7	7	8	8	8	8	8	9	9	9	9	10	10	10	10	
		27	7	19	28	1	8	14	19	3	13	19	27	3	10	17	24	30	4	14	25	29	4	11	19	26	
55 ウグイス	川原								1																1	1	
	水路																										
	その他	1	1		1																			1			
56 オオヨシキリ	川原		2	4	10	7	6	11	9	8		1		1		2											
	水路			1	1	1	1	1	1	1		1					1										
	その他																										
57 セッカ	川原	4	5	7	12	8	10	2	6	17	8	6	4	5	1	2	2	3	2	2	6	1					
	水路	4	2			1					1	1	1	1			1										
	その他	1		1		2		2	2							2				1					1		
58 ヤマガラ	川原																										
	水路																										
	その他																										
59 シジュウカラ	川原																										
	水路																										
	その他		2				1				4	1															
60 メジロ	川原																										
	水路																										
	その他																										
61 ホオジロ	川原	3	6	6	14	18	2	14	10	18	1	6	8	5		1	8		8	6		5	13	17	7	7	
	水路	6		3		6		1		2			3	2	2	1	1	5	1	1	1		3		2	1	
	その他	1		2		1	1		4	5	1																
62 ホオアカ	川原																										
	水路																										
	その他																										
63 カシラダカ	川原																										1
	水路																										
	その他																										
64 アオジ	川原	2																									
	水路																										4
	その他																										
65 カワラヒワ	川原		4	5		2	8	42	21	22	2	11	46	4			1	1								6	
	水路													1	1												
	その他									2	11	1	2														
66 シメ	川原																										
	水路																										
	その他																										
67 スズメ	川原	28	18	36	43	59	85	170	116	51	48	18	17	29	6	3	40	153	67	38	7	37	39	78	44	17	
	水路			4		21	25	33	39	56	19	22	24	20	3		11	67	21	15	8	70		3	16	19	
	その他	13	27	3	26	11	7	26	65	3	6	6	1	5	10	21	63	5	18	51		43	70	209	124	137	
68 コムクドリ	川原																										
	水路																										
	その他																				3						
69 ムクドリ	川原	6	19	23	10	27	17	28	22	35	17	2	28	19	9		11	158	94	16	45	43	3	30	22	4	
	水路			1				4	6			1		5						1							18
	その他	2	7	11	19	9	63	19	26	6		1	2	1					3	36						2	1
70 コクマルガラス	川原																										
	水路																										
	その他																										
71 ミヤマガラス	川原																										
	水路																										
	その他																										2
72 ハシボソガラス	川原	17	7	4	46	24		32	33	18	12	11	15	7	4	10	26	11	7	23	44	92	199	287	266	465	
	水路			5		6	1	18	11	5		3	2	3		2	3			9	14	1	1		18	4	
	その他	1	72	83	12	5	2	12		9	5					1				11	52	10	32	17	116	10	102
73 ハシブトガラス	川原			3	6	7	19	4	4	1	3				1	3	29		2	16	8	24	62	15	57	152	
	水路					2						2														11	1
	その他	1	28	6		1					1	3								1	1	11	3	1	1	15	15
合計種数		28	25	24	25	27	22	23	32	21	23	26	21	21	21	21	21	27	29	26	23	29	30	34	39	33	
合計個体数		282	360	376	453	460	422	731	622	434	271	227	314	398	416	256	347	653	395	445	242	448	593	1038	915	1179	

26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48																										月日	最大 個体数	種名	
																										地点			
11	11	11	11	12	12	12	12	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	4	川原	4	ウグイス	55		
2	9	16	22	11	15	20	28	5	11	18	25	1	8	14	6	15	22	28	5	12	19	26	水路	1					
	1	1	1	1		1		1	2	4	1		1	1									その他	2					
																							3	川原	11	オオヨシキリ	56		
																							水路	1					
																							その他	0					
1		1						1					1				1	2	4	5	14		川原	17	セッカ	57			
																							水路	4					
	1																						2	その他			2		
																								川原	0	ヤマガラ	58		
										2			2										水路	0					
																							その他	2					
																								川原	0	シジュウカラ	59		
																							水路	0					
																							1	その他	6				
		2	6	2					5			2	3	2									1	川原	2	メジロ	60		
		2	1																				水路	0					
			4	7				6			8	10	2									1	その他	10					
8	17	5	15		6		3	3	1	3	8	12	3	7	3	12	9	6	6	9	10	22	川原	22	ホオジロ	61			
5	4	6	8	1	2	2		4	7	11			4	6	4	4	2	1				6	水路	11					
3	4		1	5							1	1						1	2			1	その他	5					
		1	4		2		3	2															川原	4	ホオアカ	62			
																							水路	0					
		1																					その他	1					
8	6	15	21	5	10	12	4	9	11	23	10	5	2	6	1	1							川原	23	カシラダカ	63			
																							水路	0					
				1																			その他	1					
		2				1	1	1	2	3	1			2	1	3		3	2	3	2	4	川原	4	アオジ	64			
2	6		3	4	1	4	2	3	4	10	4	4	4	8	2	6	3			1	2	3	水路	10					
2			1	3			3	2	2		1	4	4	2			3	1					その他	4					
		2	5	1	2	8	8	1		1	8	3			7	1	4	21	1	18			川原	46	カワラヒワ	65			
																							水路	1					
		5	2				9		1	3			2	1	4	1	2		2	3		その他	11						
																							川原	0	シメ	66			
																							水路	0					
		1	2		1		2		1														その他	2					
25	54	28	216	32	12	18	58	52	15	48	195	94	61	63	5	10	5	8	15	19	14	14	川原	216	スズメ	67			
		1	21	21	1	8	15	22	2	22	2	1	6	4	10	5	2	3		6	1	26	水路	70					
78	145	25	58		49	2	60	21	58	29	33	34	224	31	42	22	13	4	9	25	41	29	その他	224					
																							川原	3	コムクドリ	68			
																							水路	0					
																							4	その他			12		
45	2	3	19	2	17	20		3		8	85	52	81	26	20	86	18	3	5	17	11	11	川原	158	ムクドリ	69			
																							水路	18					
		49	1	9	19	21	31			4			32	43	3			4	6	11	5		その他	63					
																							川原	0	コクマルガラス	70			
																							水路	0					
																							その他	1					
152	20	52																					川原	152	ミヤマガラス	71			
3		31																					水路	31					
56	56		77										394										その他	394					
107	701	132	46	148	104	87	100	57	96	323	289	389	85	26	15	8	15	27	19	35	22	62	川原	701	ハシボソガラス	72			
1	3	45	8	25	1	9	18	8	2	2	17	1	3	2	4	5	2	6	4	7		9	水路	45					
47	52	48	40	201	6	88	102	17	10	53	34	33	457	22	7	3	4	7	10	5	3	10	その他	457					
74	460	97	59	43	29	27	27	13	61	118	50	9	52	7	2	67	6	3		4	2	6	川原	460	ハシブトガラス	73			
2	1	33	1	4	6	1	1	5	8		2							4	3	1	2	水路	33						
30	9	6	4	49	25	32	44	1	2	10	5	2	13	2	1			8	2	2	2	2	その他	49					
35	44	45	46	35	43	32	27	30	32	30	35	30	37	31	27	34	31	28	30	37	39	35	合計種数		合計個体数				
976	2030	964	995	813	727	473	674	360	553	896	1016	847	1769	510	435	654	272	299	354	318	338	470							

5. 調査風景



サンパークの南側の川原での調査風景



中川原橋での調査風景

Ⅲ 累積記録

1. 各種解説に関する説明

1) No.

各種の No. の下に、次の3つの記号を用いて、調査区域内におけるその種の確認状況を示した。

◎：写真もしくは標本あり

○：複数の観察者に確認されている

×：単独の観察者による確認のみ

2) 種名

鳥の種名（和名）とその順序は、日本鳥学会発行の『日本鳥類目録 改訂第6版』にしたがった。外来種として目録から外された種（コジュケイほか）や、目録に掲載されていない、いわゆるかご抜けと考えられる種（コザクラインコほか）は、後に区別してまとめた。また、主に校内で落鳥した個体もしくは保護された個体も、表の最後に別にまとめた。保護された個体は後にすべて放鳥されている。

愛媛県立松山中央高等学校バードウォッチング部（1993, 1996）に掲載されていたサシバについて、観察を行った場所は調査区域内であったが、その個体が飛翔していたのは伊予市八倉の山地上空であったため、今回、累積記録から除外することにした。また、クロサギについては同定に疑問があるため、同じく累積記録から削除した。

3) 繁殖

調査区域内における各種の繁殖についての確認状況を以下の5つの記号を用いて表した。

○：卵や雛の入った巣、巣への餌運び、ほとんど移動できない雛を確認した

△：繁殖期間中にさえずりや営巣行動、交尾行動を観察した

？：かなり移動できる雛や幼鳥を観察した

×：調査区域内において繁殖する可能性はあるがまだ確認されていない

—：調査区域内において繁殖する可能性はまずないと考えられる

4) 時期

各種の調査区域内における渡りの区分を以下の5つで示した。

留鳥：一年中見られる

旅鳥：春と秋の渡りの時期に見られる

夏鳥：冬を除く時期に見られる

冬鳥：夏を除く時期に見られる

？：渡りの区分が不明

5) 頻度

調査区域内において、その種が生息する時期に記録される可能性を示した。数値化することが困難だったため、次の4段階で表した。

高：よく記録される

中：時々記録される

低：あまり記録されない

稀：稀にしか記録されない

6) 各種が調査区域内で確認された時期と、確認はされていないが今後その可能性がある時期を、以下の2つで示した。各月が2つに分かれているが、これは上旬（15日まで）と下旬（16日以降）を表している。

■：確認されている

▒：今後確認される可能性がある

2. 各種解説

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	カイツブリ	?	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	豚小屋用水路の堰堤が改修されるまでは橋の上流側に多かった。最近ほとんど橋の下流側で見られる。2001年6月に、巣立ってからしばらく経過していると思われる雛が確認されている。															
2	カンムリカイツブリ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1997年1月10日に1羽、中川原橋の下流側で観察されたのが唯一の記録。時に内陸の池に現れるが、あまり広くない河川の中流域で記録されることは珍しいと思われる。															
3	カワウ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1994年1月7日に初めて、川の上空を飛ぶ1個体が記録された。その後、徐々に観察記録が増加しているが、ほとんどが通過個体である。2001年からは越冬個体も確認されるようになった。2002年11月9日には中川原橋の下流側で88羽の群れが観察され、採餌行動も見られた。															
4	ヨシゴイ	×	夏鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1991年6月4日と翌5日に、豚小屋用水路の葦原で1羽のみが観察されたが、その後は記録がない。本種が生息できるくらい広い葦原があれば、葦原に依存する他の種も記録が増えると考えられる。															
5	ゴイサギ	-	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	以前、かきつばた水源地の西側にある雑木林をねぐらにしていた時期があったが、最近には利用していない。豚小屋用水路や中川原橋の下流側の岸でよく観察される。															
6	ササゴイ	-	夏鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1995年の大洪水以降、ほとんど観察されなくなっていたが、最近、再び記録されるようになった。															
7	アマサギ	-	夏鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	農耕地にいたることがほとんどであるが、増水時などに川原で少数が見られることもある。越冬個体が時々確認される。															
8	ダイサギ	-	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	夏期に個体数が多く、冬期に少ない傾向がある。群れていることが多く、アオサギなどと行動をともにすることが多い。															
9	チュウサギ	-	夏鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	時々川で観察されるが、記録は少ない。2001年12月11日に1羽が川原で確認されており、越冬個体の可能性がある。															
10	コサギ	-	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	水の浅いところに多い。以前に比べて、最近では観察される個体数が少なくなった印象がある。かつて、かきつばた水源地の西側の雑木林をサギ類がねぐらにしていた時期があった。															
11	アオサギ	-	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	川原に多いが、農耕地にも多く、よく群れている。ダイサギと同様に夏期に個体数が多く、冬期に少ない傾向がある。															
12	マガモ	×	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	ほぼ一年中観察されているが、繁殖は未確認。冬期の個体数はコガモに次いで多いが、川の水量に影響され、変動が激しい。															
13	カルガモ	×	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	6月頃まで観察されているが、繁殖は未確認。観察される個体数は少ない。重信川河口や下流には多く、それより上流には少ないようである。石手川には個体数が少ない。															
14	コガモ	-	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	調査区域内で最も個体数が多いカモ類。渡来してしばらくは豚小屋の用水路に多い。秋期、越冬のために渡ってくるカモ類の中では最初に記録される。															
15	ヨシガモ	-	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	調査区域内において記録自体少なく、観察される個体数も少ない。本種は重信川河口に少なくないが、あまり上流へは上がって来ないようである。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
16	オカヨシガモ	-	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	前種同様、本種も観察される個体数は少ないが、記録はヨシガモよりも多い。本種もあまり上流へ上がって来ないようである。															
17	ヒドリガモ	-	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	以前は冬期の個体数がとても多かったが、最近減少した。他のカモ類に比べて、岸に上がって休んだり採餌したりする個体が多い。															
18	オナガガモ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	比較的上流へも上がってくるカモ類。もともと冬期の個体数は多くないが、本種も観察される個体数が少なくなってきた。															
19	シマアジ	-	旅鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	春と秋の渡りの時期に、単独やつがいで、もしくはコガモに混じって1~3羽が観察される。2001年11月24日に1羽が記録されたが、越冬はしなかったと思われる。															
20	ハシビロガモ	-	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	個体数だけでなく記録自体も非常に少ない。本種もヨシガモ同様、あまり上流へは上がって来ないようである。															
21	ホシハジロ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
×	記録は非常に少ない。本種は次種とともに、県内において湖沼に入ることが多く、あまり広くない河川で観察されることは少ないようである。															
22	キンクロハジロ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	記録は非常に少なく、10月下旬から11月上旬にかけてのみ記録されている。すべて中川原橋の下流側で観察されている。															
23	ズズガモ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	記録は非常に少なく、前種と同様、10月下旬から11月上旬にかけてのみ記録されている。すべて中川原橋の下流側での観察記録で、雄の記録はない。本種は河口部によく見られる。															
24	ミサゴ	-	留鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年を通して観察されるが、ほとんどが通過個体である。最近、調査区域内における確認例が増えてきたが、原因は不明。															
25	トビ	-	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中見られるが、個体数は少ない。															
26	オオタカ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	主に冬期に単独で観察されることが多い。9月に幼鳥が何度か観察されており、調査区域からそれほど離れていない場所で繁殖している可能性がある。															
27	ハイタカ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に1羽もしくは2羽が、川の上空で観察される。															
28	ノスリ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1996年11月15日に学校の東側の農耕地上空で、2002年1月9日に中川原橋の下流側の岸で、それぞれ1羽が観察された。															
29	ハイロチュウヒ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	2002年2月6日と同年3月20日、ともに雌が1羽、中川原橋付近で観察された。この年の冬、本個体が重信川とその周辺の農耕地に滞在していた。															
30	ハヤブサ	-	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年を通して観察され、よくサンパークの電波塔の上にとまっている。幼鳥も時々確認される。															
31	チゴハヤブサ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
×	1993年9月28日に2羽が、学校付近上空を西方向へ移動するのが観察されたことがあり、これが唯一の記録である。渡りの途中の個体である。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
32	チョウゲンボウ	—	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	川や農耕地の上空を停空飛翔（ホバリング）している姿がよく観察される。1999年11月13日には首が白い個体の中川原橋付近で観察された。															
33	ウズラ	—	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2002年11月4日に第1回冬羽と思われる雄が1羽、かきつばた水源地横の寿冷凍食品の前の路上で、落鳥体として拾得されたのが唯一の記録。															
34	キジ	○	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	春先に雄の声がよく聞かれるが、個体数はそれほど多くないと思われる。雌が雛を連れて歩く姿も時々観察される。															
35	ナベヅル	—	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1997年11月28日に5羽が、中川原橋の下流側の上空を飛んでいるのが観察されたことがあり、これが唯一の記録である。下流側から飛んできて、橋の辺りで引き返していった。															
36	クイナ	—	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	ほとんどが豚小屋用水路での記録である。近年、次第に草原が貧弱になっており、いつ見られなくなってもおかしくない状況である。															
37	ヒクイナ	○	夏鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	豚小屋用水路でよく観察される。1984年6月24日に相川氏によって繁殖が確認されている。県内では越冬個体が時々確認されており、調査区域内でも越冬している可能性がある。															
38	バン	?	留鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	幼鳥の記録は多いが、繁殖はまだ確認されていない。最近では中川原橋の下流側で観察されることがほとんどである。															
39	オオバン	—	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1996年12月7日と同13日、中川原橋の下流側で1羽が観察された。															
40	レンカク	—	?	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
×	1985年6月7日と翌8日に、学校の南側の川で夏羽が1羽、相川氏によって観察された。															
41	コチドリ	○	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2001年7月3日に雛が確認されている。次種に比べて個体数は少なく、夏に多い。															
42	イカルチドリ	△	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	確実な繁殖記録はないが、繁殖していることはまず間違いないと思われる。個体数は冬に多い。															
43	メダイチドリ	—	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
×	1994年5月1日に1羽、相川氏によって観察されたのが唯一の記録。河口部に多く、あまり上流へは上がって来ないものと思われる。															
44	ムナグロ	—	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	多くは旅鳥で、単独から十数羽の群れで見られる。11月下旬や2月上旬にも観察記録があり、これは重信川流域での越冬個体と思われる。															
45	ケリ	—	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
×	1992年4月21日に1羽、学校の南側の川の上空を、上流に向かって飛んでいくのが観察されたことがあり、これが唯一の記録である。繁殖地への移動の途中と思われる。															
46	タゲリ	—	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	中川原橋付近の川原で確認されることが多いが、2001年11月に観察された後、記録がまったくない。															
47	キョウジョシギ	—	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1995年まで毎年のように観察されたが、その後まったく記録がない。見られた場所は学校の南側の川原で、最近では他のシギ類もここでは見られなくなっている。															
48	トウネン	—	旅鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1～数羽、時に十数羽の群れが川原で観察されるが、最近では記録が非常に少ない。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
49	ウズラシギ	-	旅鳥	稀												
◎	1992年9月1日に1羽が学校の南側で、2001年4月28日に5羽が中川原橋の下流側で、それぞれ川原で確認されている。1985年5月5日に9羽、相川氏によって観察された記録もある。															
50	ハマシギ	-	冬鳥	低												
◎	1~数羽、時に20羽を超える群れが川原で観察されている。1994年1月24日に3羽、2002年11月9日に1羽が記録されており、これらは重信川流域での越冬個体と考えられる。															
51	キリアイ	-	旅鳥	稀												
×	1997年9月27日に1羽、中川原橋の上流側の川原で観察されたのが唯一の記録。県内でも確認される個体数の多い種ではない。															
52	ツルシギ	-	旅鳥	稀												
○	2002年9月28日と同30日に1羽、いずれも中川原橋の下流側の川原で観察された。2回とも同一個体で、数日間滞在したのと考えられる。															
53	アカアシシギ	-	旅鳥	稀												
◎	1個体が川原で観察されることが多いが、1984年7月2日には4羽が相川氏によって記録されている。確認例は少ないが滞在することが多いようで、長い時は10日間ほど観察された。															
54	コアアシシギ	-	旅鳥	稀												
○	1992年9月16日と2001年10月19~29日にそれぞれ1羽が観察された。後者の個体は、中川原橋の下流側で滞在したのが確認されている。															
55	アオアシシギ	-	旅鳥	中												
○	1~数羽が川原で観察されている。最近の観察記録は減少している。															
56	クサシギ	-	冬鳥	高												
◎	1~数羽が川原で観察されている。6月以外の全ての時期に記録がある。															
57	タカブシギ	-	旅鳥	低												
○	最近記録が少ない。相川氏の観察記録によると、1984、1985年頃は観察される頻度も個体数も多かったようである。これは他のシギ類にも言える。															
58	キアシシギ	-	旅鳥	高												
◎	比較的、記録が多いシギ類。しかし最近観察される個体数が少なくなっている。1996年5月11日に中川原橋の上流側の川原で、青色のレッグフラッグのついた個体が1羽記録された。															
59	イソシギ	×	留鳥	高												
◎	一年中記録があるが、繁殖はまだ確認されていない。調査区域内ではないが、重信川流域で繁殖が確認されている。															
60	ソリハシシギ	-	旅鳥	稀												
○	1997年10月9日に4羽、中川原橋の上流側で観察されている。1984年6月には相川氏によって1羽が観察されている。河口部に多く、あまり上流へは上がって来ないようである。															
61	オグロシギ	-	旅鳥	稀												
○	1996年10月3日と2002年9月28日に、それぞれ1羽が中川原橋の下流側の川原で観察された。いずれの個体も滞在はしなかったようである。															
62	チュウシャクシギ	-	旅鳥	稀												
○	もともと記録は少ないが、1997年5月10日に4羽が学校の南側の川原で確認されて以降、最近の観察記録はない。															
63	ヤマシギ	-	冬鳥	稀												
◎	1994年12月20日に1羽、校内で落鳥個体が拾得された。正面玄関の扉のガラスに衝突したと思われる。夜間、校内で採餌していた可能性がある。															
64	タシギ	-	冬鳥	中												
◎	1~数羽が川原で観察される。渡りの時期に、オオジシギやチュウジシギなどの近縁の種が混じっている可能性があるが、確認されていない。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
65	セイタカシギ	—	旅鳥	稀												
◎	1996年4月23～29日にかけて学校の南側で、2001年10月23日に中川原橋の下流側で、それぞれ1羽が川原で確認された。															
66	ツバメチドリ	×	旅鳥	稀												
×	1993年5月29日に1羽、学校の南側の川の上空を飛び回る個体が観察されたのことがあり、これが唯一の記録である。調査区域の少し下流側では繁殖が確認されたことがある。															
67	ユリカモメ	—	冬鳥	低												
○	最近の観察例は少ない。群れが川の上空を通過するのみで、採餌行動は確認されていない。															
68	アジサシ	—	旅鳥	稀												
×	1989年8月27日、台風が通過して増水した豚小屋用水路付近の上空を飛び回っている、数十羽の群れが観察されたのことがあり、これが唯一の記録である。															
69	コアジサシ	×	夏鳥	低												
○	1～数羽が上空を通過するのが観察される程度である。最近、記録が極端に少なくなった。															
70	キジバト	○	留鳥	高												
◎	一年中記録があり、繁殖も確認されている。															
71	カッコウ	—	旅鳥	稀												
×	1984年5月30日と翌31日に1羽、かきつばた水源地の西側の雑木林付近で、電線にとまって鳴いている個体が相川氏によって記録された。繁殖地への移動の途中と思われる。															
72	コミミスク	—	冬鳥	稀												
◎	1992年12月22日と1996年1月5日にサンパークの南側の川原で、2002年11月12～20日に中川原橋の下流側で、それぞれ1羽が観察された。1984年11月7日にも1羽、相川氏によって記録されている。															
73	アオバズク	△	夏鳥	稀												
×	1993年6月7日の夜、学校の北側で1個体の声が聞かれたのが唯一の記録。どこで繁殖している個体かは不明である。															
74	フクロウ	—	?	稀												
○	1990年10月31日と同年11月6日にそれぞれ1羽、サンパークの木にとまっているところが観察された。越冬か移動途中かは不明である。															
75	ヒメアマツバメ	—	冬鳥	低												
○	冬期から春期にかけて、川の上空を飛び回る群れが観察されているが、記録自体は少ない。															
76	アマツバメ	—	旅鳥	低												
○	渡りの時期に単独、もしくは数羽～数十羽の群れで川の上空を飛び回るのが観察されている。															
77	カワセミ	○	留鳥	中												
◎	一時、観察記録が減少していたが、近年になって増えてきた。冬期に記録が多い。相川氏によると、1980年代には複数のつがいが繁殖していたという。															
78	アリスイ	—	冬鳥	稀												
×	2002年11月12日に1羽、サンパーク内で観察されたのが唯一の記録。															
79	コゲラ	×	冬鳥	低												
○	調査区域内では1995年に初めて記録されたが、サンパーク内にはもっと前から生息していたと思われる。ほとんどの記録がサンパーク内で冬期に観察されたものである。															
80	ヒバリ	○	留鳥	高												
◎	一年を通して生息しており、繁殖も確認されている。春から夏にかけてさえずりが聞かれるが、秋や冬にも暖かい日にはさえずりを聞くことがある。															
81	ショウドウツバメ	—	旅鳥	稀												
×	1994年10月24日に8羽、豚小屋付近の上空で観察されたのが唯一の記録。秋の渡りの時期に見られる。天気の良い日は低く飛ぶようで、記録された日も曇っていた。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
82	ツバメ	○	夏鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	毎年、2月の終わりか3月の初めに初認されるが、1月下旬や2月上旬の観察記録もある。最も遅い終認記録は11月11日。校内で繁殖が確認されている。															
83	コシアカツバメ	△	夏鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1991年と1992年の6月に、校内で巣を作り繁殖を試みたが、いずれもスズメに巣を乗っ取られ、繁殖は失敗している。その後は繁殖期に観察されなくなり、渡りの時期に記録される程度である。															
84	イワツバメ	—	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
×	1985年4月12日、相川氏により10+羽が観察されたのが唯一の記録。渡りの途中と思われる。															
85	キセキレイ	×	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	個体数は少ないが、ほぼ一年中記録がある。調査区域内でさえずりは聞かれておらず、繁殖していないものと思われる。															
86	ハクセキレイ	×	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	主に冬期に観察されるが、近年では夏期にも記録がある。県内においても近年になって繁殖の確認例が出てきており、いずれは留鳥となる可能性がある。															
87	セグロセキレイ	△	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	調査区域内で繁殖しているものと思われる。1993年10月16日にかきつばた水源地の南側で、1994年9月10日には学校の北側でそれぞれ1羽、頭部が白い部分白変個体が観察されている。															
88	ビンズイ	—	旅鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	秋期、川の上空を鳴きながら飛ぶ個体が時々観察される。春期は、1991年4月1日に1羽が観察されたことがあるのみである。															
89	タヒバリ	—	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期から春期にかけて、川原や農耕地で小群が観察される。															
90	ヒヨドリ	○	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	調査区域内に一年中見られるが、繁殖しているのはごく少数で、越冬する個体が多い。渡りの時期には群れが上空を飛んで行くのが観察される。															
91	モズ	○	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年を通して記録はあるが、繁殖期にはなかなか観察できない。馬小屋付近において繁殖が確認されている。															
92	キレンジャク	—	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1993年4月21日に1羽が校内の校門付近で、1995年4月17日に6羽が学校の南側で記録されている。次種とともに、渡来する個体数が年によって大きく変動する。															
93	ヒレンジャク	—	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1995年3月22日に学校の南側で10+羽が、2001年4月28日にかきつばた水源地付近の上空で9羽が観察されている。1985年3月6日にも5羽が相川氏によって記録されている。															
94	ノゴマ	—	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1990年5月に校内で落鳥した雄が1個体拾得されている。1996年11月3～10日には校内に滞在した雄1羽が確認されている。他にも数例の観察記録がある。															
95	ジョウビタキ	—	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に観察されるが、最近は記録個体数が少ない。毎年10月下旬に初認され3月まで滞在するが、4月下旬にも記録がある。															
96	ノビタキ	—	旅鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	渡りの時期に1～数羽が観察されている。秋期に観察記録が多く、春期には少ない。春期は4月に、秋期は9月上旬から11月初めまで記録されている。															
97	イソヒヨドリ	×	?	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
×	2002年9月30日に雌が1羽、中川原橋の橋脚で観察されたのが唯一の記録。調査区域外ではあるが、1995年1月に雌が1羽、少し上流の重信大橋の橋脚で記録されている。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
98	トラツグミ	—	冬鳥	稀	■	■	■									
○	1990年2月12日に1羽、かきつばた水源地の西側の雑木林で観察されたのが唯一の記録。															
99	クロツグミ	—	旅鳥	稀				■	■					■	■	■
◎	2002年11月16日と翌17日に、雄の冬羽と思われる個体が1羽、サンパーク内で確認された。越冬する可能性はあるが、おそらく通過個体で、しばらくしてから渡去するものと思われる。															
100	アカハラ	—	旅鳥	稀			■	■	■					■	■	■
◎	1993年4月19日に1羽が学校の南側で初めて観察された。その後、サンパーク内で複数回記録されている。2002年の11月には十数羽の群れが確認されている。															
101	シロハラ	—	冬鳥	低	■	■	■	■	■							
◎	冬期に河川敷のやぶやサンパーク内で観察されるが、個体数は多くない。校内で幼鳥が保護されたことがある。															
102	マミチャジナイ	—	旅鳥	稀			■	■	■					■	■	■
◎	2002年11月11日に1羽、サンパーク内で初めて観察された。その後、同地で複数回確認されており、多い時には8羽が記録されている。アカハラ、シロハラ、ツグミと一緒に採餌していた。															
103	ツグミ	—	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に観察されるが、年によって現れる時期が異なる。早ければ11月中に、遅い時は年が明けてから姿を見せる。5月の初めまで記録がある。															
104	ヤブサメ	—	旅鳥	稀			■	■							■	■
○	1992年10月29日に1羽、校内で落鳥個体が拾われたのが唯一の記録。渡りの途中と思われる。															
105	ウグイス	△	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	一年中記録があるが、秋期には観察記録が少ない。繁殖期にさえずりが聞かれるが、繁殖はまだ確認されていない。															
106	オオヨシキリ	△	夏鳥	高					■	■	■	■	■	■	■	■
◎	巣にいる雛へ餌を運んでいると思われる行動が観察されているが、巣や雛は確認されていない。近年、大雨の後の増水や河川改修工事により葦原が減少し、個体数がかなり減少した。															
107	メボソムシクイ	—	旅鳥	稀				■	■					■	■	■
○	1994年10月8日に2羽、サンパーク内で観察されたのが唯一の記録。渡りの途中に立ち寄ったものと思われる。															
108	センダイムシクイ	—	旅鳥	稀				■	■					■	■	■
○	2001年9月10日に1羽、校内で落鳥個体が拾得されたのが唯一の記録。渡りの途中と思われる。															
109	ククイタダキ	—	旅鳥	稀			■	■						■	■	■
◎	2002年3月25日に雄が1羽、校内で落鳥体として拾得されたのが唯一の記録。渡りの途中と思われる。															
110	セッカ	○	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中生息するが、冬期は草むらに潜んでいて観察が難しい。繁殖が確認されている。															
111	キビタキ	—	旅鳥	稀				■	■					■	■	■
◎	1991年4月13日に雄1羽が豚小屋用水路のやぶで、1994年4月28日に雄1羽と同年10月8日に雌1羽がそれぞれサンパーク内で観察されている。2001年9月10日には幼鳥が1羽、校内で保護された。															
112	オオルリ	—	旅鳥	稀				■	■					■	■	■
○	1992年4月下旬に雄1羽の落鳥体が校内で拾得され、1994年10月8日に雌が1羽、サンパーク内で観察された。本種は前種とともに、繁殖地へ渡る途中に立ち寄るのみである。															
113	サメビタキ	—	旅鳥	稀										■	■	■
○	1994年10月8日に1羽が、同13日に2羽が、それぞれサンパーク内で観察された。															
114	エゾビタキ	—	旅鳥	稀										■	■	■
◎	1994年10月4日に学校の南側で1羽、同30日にサンパーク内で1羽、2002年9月30日にサンパーク内で2羽が記録された。本種は前種とともに秋期にのみ観察される。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
115	コサメビタキ	-	旅鳥	低												
◎	1993年9月19日に1羽が学校の南側で、1994年と1995年の秋期に1~4羽がサンパーク内で観察されている。2002年4月10日にはサンパーク内でさえずる個体が記録されている。通過するのみである。															
116	ツリスガラ	-	冬鳥	低												
○	広い草原がないためか、観察記録は少ない。3~5月と11月に記録されており、真冬の記録はない。															
117	ヤマガラ	×	冬鳥	低												
○	1994年10月にサンパーク内で初めて記録されたが、もっと前から生息していたものと思われる。ほとんどがサンパーク内での記録で、1997年5月にはかきつばた水源地付近で観察された。															
118	シジュウカラ	△	冬鳥	低												
○	ヤマガラと同様、1994年10月にサンパーク内で初めて記録されたが、もっと前から生息していたと思われる。ほとんどがサンパーク内での記録である。2001年7月には巣立ち雛が観察されている。															
119	メジロ	-	冬鳥	中												
◎	サンパーク内での記録が多いが、冬期は他の場所でもよく見られる。繁殖期には見られない。校内では窓ガラスに衝突した個体が時々拾得される。															
120	ホオジロ	○	留鳥	高												
◎	一年中生息し、個体数は多い。繁殖も確認されている。															
121	ホオアカ	-	冬鳥	中												
○	冬期、河川敷の低い草地に生息するが、草むらに潜んでいることが多く、観察するのは難しい。															
122	カシラダカ	-	冬鳥	低												
◎	冬期に観察される。ホオジロに比べると個体数は少ない。しかし、相川氏によると、1980年代頃まではホオジロよりも個体数が多かったとのことである。															
123	ノジコ	-	旅鳥	稀												
○	1995年4月28日に3羽、サンパーク内で観察されたのが唯一の記録。															
124	アオジ	-	冬鳥	高												
◎	冬期に河川敷のやぶなどで観察される。開けた場所へはあまり現れない。春期には樹上で新芽をついばんだり、さえずる個体が観察されている。															
125	オオジュリン	-	冬鳥	低												
◎	草原で数羽から十数羽の群れが見られる。草原が少なくなったためか、最近では記録がほとんどない。															
126	アトリ	-	冬鳥	稀												
○	2002年11月1日に4羽、サンパークの南側の上空で観察されたのが唯一の記録。															
127	カワラヒワ	△	留鳥	高												
◎	一年中観察されるが、繁殖期は個体数が少ない。冬期には大きな群れが見られることがある。2001年8月には幼鳥が観察されており、調査区域内で繁殖している可能性がある。															
128	ベニマシコ	-	旅鳥	稀												
◎	1989年3月30日に雄が1羽、豚小屋用水路の南側で、相川氏によって観察されたのが唯一の記録。															
129	コイカル	-	旅鳥	稀												
○	1991年4月13日に10+羽、かきつばた水源地の西側の雑木林で観察されたのが唯一の記録。															
130	イカル	-	冬鳥	低												
○	冬期に数羽から十数羽の群れが観察されているが、多くはサンパーク内での記録である。															
131	シメ	-	冬鳥	低												
◎	冬期に数羽が観察される。ほとんどがサンパーク内での記録であるが、かきつばた水源地の西側の雑木林などでも観察されている。イカルよりも記録が多い。															
132	スズメ	○	留鳥	高												
◎	一年中生息し、校内で繁殖も確認されている。豚小屋付近には群れが住み着いている。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
133	コムクドリ	-	旅鳥	低												
◎	渡りの時期に1~数十羽が観察されている。樹木の減少のためか、最近、春期の記録が少なくなった。春期は本種だけの群れでいるが、秋期はムクドリの群れに混じっていることがほとんどである。															
134	ムクドリ	○	留鳥	高												
◎	一年中観察され、中川原橋の橋脚などで繁殖している。非繁殖期の夕方には、ねぐら入り前の大きな群れが観察される。															
135	コクマルガラス	-	冬鳥	稀												
◎	1995年11月25日にかきつばた水源地の西側の雑木林で淡色型が、1998年11月6日に学校の東側の電線で中間型が、2001年11月2日に豚小屋の横の電線で暗色型が、それぞれ1羽ずつ確認されている。															
136	ミヤマガラス	-	冬鳥	低												
◎	冬期に数羽から数百羽の群れが観察される。ねぐらへ向かう途中の群れが見られることが多い。ハシボソガラスの群れに混じっていることもある。															
137	ハシボソガラス	○	留鳥	高												
◎	一年中生息し、豚小屋周辺によく群れている。残飯を狙っているものと思われる。校内やその周辺で繁殖が確認されている。															
138	ハシブトガラス	○	留鳥	高												
◎	前種よりも個体数がかなり少なく、しばしばその群れの中に混じっている。サンパークの電波塔に営巣し、繁殖したのが確認されている。															

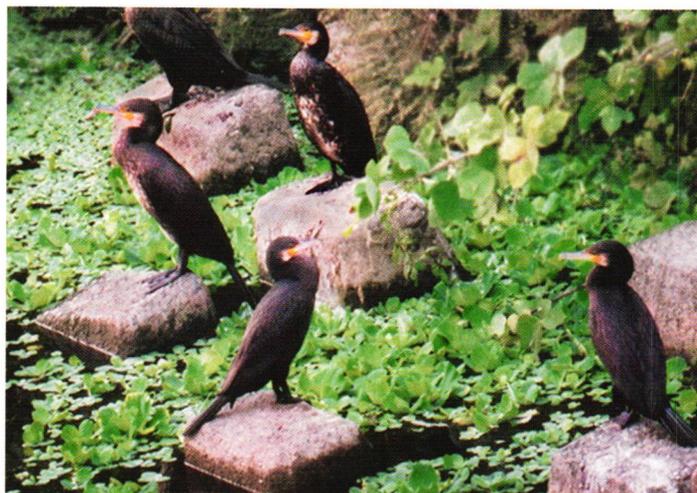
外来種もしくはかご抜けの種

1	クロアヒル	-	?	稀												
○	1997年3月8日にクロアヒルの雄と思われる1個体が、学校の南側の川で観察されたのが唯一の記録。滞在はしなかった。															
2	コジュケイ	×	?	稀												
○	1993年と1995年の春期に、かきつばた水源地の西側の雑木林で鳴き声が何度も聞かれている。その後の記録はない。															
3	コウライキジ	×	?	稀												
◎	2001年5月16日と同年11月7日にそれぞれ雄が1羽、豚小屋用水路付近で確認されている。キジとは亜種の関係にある。															
4	ウコッケイ	-	?	稀												
◎	2001年11月2日に1羽が豚小屋の東側の農耕地で、2002年5月17日に雄1個体が学校の南側で観察されている。															
5	カワラバト(ドバト)	○	留鳥	高												
◎	一年中生息し、中川原橋や馬小屋付近に個体数が多い。校内で繁殖が確認されている。															
6	セキセイインコ	×	?	稀												
○	1990年10月21日にかきつばた水源地の西側で、2001年9月26日と同年10月23日に中川原橋の下流側で、それぞれムクドリの群れに混じった1個体が観察されている。															
7	コザクラインコ	-	?	稀												
◎	1995年5月22日に1羽、校内で保護されたのが唯一の記録。翌日には死亡した。															
8	ベニスズメ	△	?	稀												
○	1993年9月15日に雄が1羽、校内で保護され、その後放鳥された。1984年10月14日には、豚小屋用水路付近で2+羽が相川氏によって観察され、この時、雄が盛んに巣材を運び込んでいたとのことである。															

落鳥した種と保護された種

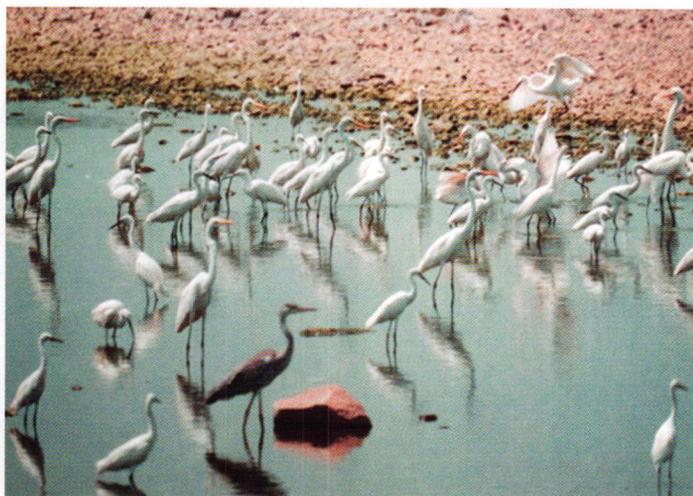
落鳥	ウズラ、ヤマシギ、キジバト、ノゴマ、ヤブサメ、センダイムシクイ、キクイタダキ、セッカ、オオルリ、メジロ、スズメ、コザクラインコ
保護	シロハラ、キビタキ、メジロ、スズメ、カワラバト(ドバト)の雛、ベニスズメ

3. 重信川中流域の鳥類



カワウ
2002年11月
中川原橋下流

サギ類の群れ
アオサギ
ダイサギ
コサギ
2001年7月
中川原橋下流



キンクロハジロ(左)
スズガモ(右)
2002年11月
中川原橋下流

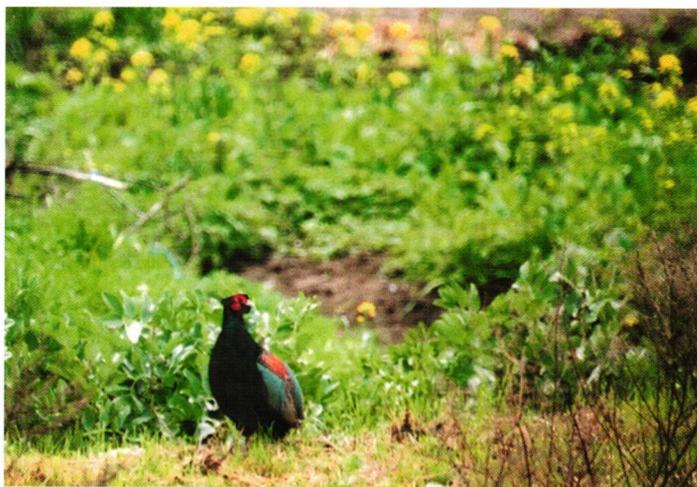




ミサゴ
2001年 6月
中川原橋上流



クイナ
2001年 2月
豚小屋用水路



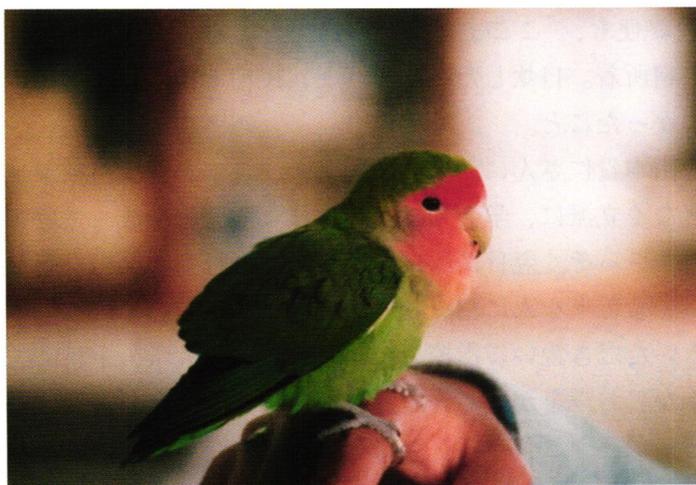
キジ
2001年 5月
中川原橋下流



ノゴマ
1996年11月
校内



クロググミ
2002年11月
サンパーク内



コザクラインコ(かご抜け)
1995年5月
校内

IV あとがき

顧問 高橋 淳

15期生の上沖正欣・高橋良太の2名での活動も2年目を迎えます。部員は少ないながらも、今年も色々な思い出ができました。

7月。砥部町のお年寄りのデイケアに呼んでいただき、重信川の鳥類について発表しました。自然豊かな時代に幼少時代を過ごされたお年寄りたちにとって、我々が考える以上に鳥類は身近な存在であり、鳥にまつわる数多くの思い出話を伺うことができました。最後に代表の方が直立不動の姿勢でお礼の言葉を述べてくださったことに恐縮しつつ、また是非訪ねさせていただきたいと思いました。

8月。猛暑の中、恒例の岩城島合宿。今年もドラマがありました。何人もの先輩が登った島の最高峰積善山への登山道を、島の南面からたどりつつ調査開始。しかし、しばらく行くと、『南登山道、土砂崩れのため通行禁止』の立て札。しかたなく島を東側から半周し北登山道にたどり着いたのは、もう、午後の3時を過ぎていたと思います。数年前の山火事の跡の荒涼とした風景の中、北登山道を重い足を引きずりながら山頂を目指し、水筒の水も底をつき、遂に「勇気ある撤退」を決意したのは山頂まであと30分という地点でした。そしてまさにその時、登山道脇での「バサバサッ」という羽音とともにスコープを構えた僕たちの前に展開されたのはハチクマのディスプレイ行動。疲れも一気に吹き飛びました。

北登山道の登山口まで下山し、通りがかりのご近所の方に、島の南側の僕たちの宿所へ戻るには東廻り西廻りどちらが近いか伺ったところ、そのお返事は「ここはちょうど島の北側なのでどちらでも一緒ですよ。」との絶望的なもの。1日6便しかない島を周回するバスの最終便も、「ここまできたら島を一周するぞっ」と意地になって見送りながら、遂に宿所着。自炊したギョーザと、民宿で借りたお風呂の、おいしかったこと、気持ちよかったこと。

9月。県総合科学博物館の山本貴仁さんにお誘いいただき、日本鳥学会へ初参加。上沖・高橋両名は臆することなく立派に、学会初の高校生による発表を成し遂げました。発表したカワウの資料をさっそく翌日に届けてくださった野鳥の会の加藤七枝さん。会場で僕たちを一生懸命色々な人に紹介してくださった京都の中川宗孝さん。発表を終始熱心にお聞きいただき鋭いご指摘をいただいた信州大学の中村浩志先生。その他にも多くの方々からお声をかけていただき、自分たちの世界が一気に広がった学会参加でした。ありがとうございました。

そして、この調査集の編集に忙殺された10・11月。今のバードウォッチング部があるのは彼のおかげだといってよい、5期生部長の小川次郎さん。これだけのデータを整理しこの冊子にまとめることができたのは、君のおかげです。ありがとうございました。

また、最後になってしまいましたが、貴重なデータを提供してくださった日本野鳥の会愛媛県支部の相川善一さん、物心両面でご援助いただいた愛媛大学農学部の野生生物研究会の皆さん、日本野鳥の会愛媛県支部顧問の忽那要さん、あなた方のお支えにより、今日、この冊子を発行することができました。本当にありがとうございました。

今後も、重信川を、いつまでも野鳥の楽園として、守っていくために我々バードウォッチング部は日々の活動を続けてまいります。

2002年12月1日

V 文 献

- 愛媛県立松山中央高等学校バードウォッチング部 (1993) 重信川中流域の野鳥. 22pp.
愛媛県立松山中央高等学校バードウォッチング部 (1996) 重信川中流域の野鳥調査 1995年5月～1996年5月. 23pp.
日本鳥類目録編集委員会 (2000) 日本鳥類目録 改訂第6版. 345pp. 日本鳥学会.
日本野鳥の会愛媛県支部 (1995) 改訂版 愛媛の野鳥 観察ハンドブック はばたき. 383pp. 愛媛新聞社.
小川次郎・大林延夫 (1999) 愛媛大学農学部附属演習林の鳥類相とその変遷 とくに環境(植生)変化との関係について. 41pp.
小川次郎・下田勝 (1996) サンパークの野鳥調査—調査報告書—. 15pp.
高野伸二 (1982) フィールドガイド 日本の野鳥 増補版. 342pp. 日本野鳥の会.

VI 部員紹介

名誉顧問	佐野 章雲				
顧問	高橋 淳	廣田 章子			
1 期 生	梅木 達也 永安 聖二	栗原 高亮 森本 和則	清水 大輔	関 清仁	
2 期 生	大西秀次郎 中村 綾	富岡 秀幸	武市美枝子	谷 千寿子	
4 期 生	越智 敏幸 上元 明子	松友 崇	加藤 宝	伊藤みはる	
5 期 生	小川 次郎 井伊 直美	小西 末由 井上 栄子	阿部 史子 丹生谷礼香	新井 祐子	
7 期 生	宇都宮芳江 戒田 智子	谷 真木	鳥生 明子	田中 恭子	
8 期 生	瀧山 和也 北谷 篤	中井 崇人	富岡 静香	木下 明子	
9 期 生	田井 穰	池内 和浩	山本 舞		
10 期 生	今村 達紀	池田 公平	石川 隆之	藤岡 寛	
12 期 生	相原 由美	泉原 愛	松久 祥子		
15 期 生	上沖 正欣	高橋 良太			

重信川中流域の鳥類調査 2001年4月～2002年4月

発行日	2002年12月1日
編集発行	愛媛県立松山中央高等学校 バードウォッチング部 〒791-1114 松山市井門町1220番地 TEL (089)957-1022
顧問	高橋 淳
部長	上沖 正欣
OB	小川 次郎
印刷者	信和印刷
副部長	高橋良太